

5年社会科学習指導略案

指導者 洋野町立林郷小学校

永瀬 康知

日時 平成30年2月2日(金)

児童 男子4名 女子1名 計5名

1 単元名 これからの食糧生産

2 本時の目標

- ・日本のカカオ豆の輸入相手国では、児童労働の実態があることをとらえさせる。
- ・フェアトレードの仕組みを知り、これからの買い物の仕方や食料の選び方について考えさせる。

主な学習活動	指導上の留意点(評価◎)	主な資料等
<p>1 チョコレートについて、原料やその原産国について知っていることを出し合う。</p> <p>2 フェアトレード製品のチョコレートと普通のチョコレートを食べしてみる。</p> <p>3 カカオ農園で自分たちと年齢が変わらない子ども達が働いている写真を見る。</p> <p>4 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">どんな食べ物の選び方をすればよいか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートの原料が、カカオ豆であることをおさえる。 ・どちらの製品も味などの品質に違いが無いが、一方にフェアトレードのマークが入っていることに気付かせる。 ・自分たちが食べているチョコレートのカカオ豆が、過酷な児童労働によって生産された物だったら、どんな気持ちになるかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類のチョコレート ・カカオ農園の写真
<p>3 日本のカカオ豆の自給率と輸入相手国を調べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">カカオ豆の輸入先</p> <p>1位 ガーナ 70.8%</p> <p>2位 コートジボワール 8.5%</p> <p>3位 ベネズエラ 7.1%</p> <p>4位 エクアドル 7.1%</p> <p>5位 ドミニカ共和国 2.1%</p> </div> <p>4 カカオ農園で行われている児童労働の実態を調べる。</p> <p>5 フェアトレードについて知る。</p> <p>6 これからどのような食べ物の選び方をすればよいか考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のカカオ豆が100%輸入に頼っていることと、その7割がガーナであることに気付かせる。 ・カカオ農園で働いている子ども達の年齢や労働時間などをとらえさせる。 <p>◎児童労働の実態や課題を捉えている。</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働の排除など、フェアトレードが目指していることをとらえさせる。 ・生産者と消費者のどちらのことも考えるよう助言する。 <p>◎フェアトレードが目指していることを意識した選び方をしているか。【思】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のカカオ豆の輸入先の割合を示す円グラフ ・ACEのHP ・フェアトレードジャパンのHP
<p>7 学習して考えたことをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カカオ農園の児童労働の実態やフェアトレードのことを知る前と考えがどのように変わったかをまとめさせる。 	

【資料】



本時で使用したチョコレート



授業の導入で提示した写真



NPO 法人 ACE の HP で児童労働の実態を捉えさせた



フェアトレードのチョコレートとその他のチョコレートを見比べる児童

カカオ生産地での児童労働の現状

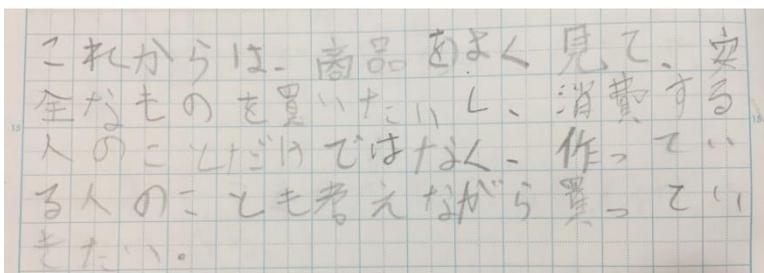
IITA（国際熱帯農業研究所）が実施した西アフリカのカカオ生産における児童労働の調査

(*1)では、コートジボワールだけで約13万人の子どものが農園での労働に従事しています。カカオ農園は小規模な家族経営である場合が多く、子どもが家族の手伝いとして働いている場合もありますが、1万2000人の子どもが農園経営者の親戚ではない子どもだったそうです。また、農園経営をする家庭の子ども（6～17歳）の3分の1は、一度も学校に行ったことがありません。その中には「何らかの仲介機関」によってこの職についている子どももいて、他国から誘拐され奴隷として売られて強制的に働かされているという報道や他の文献の指摘を裏付けています。この調査では、西アフリカのカカオ農園で働く子どもの64%が14歳以下と報告され、カカオ栽培の労働集約的な作業、特に農薬の塗布や刃物の使用などは子どもの身体に危険をもたらす可能性が高いと言われています。

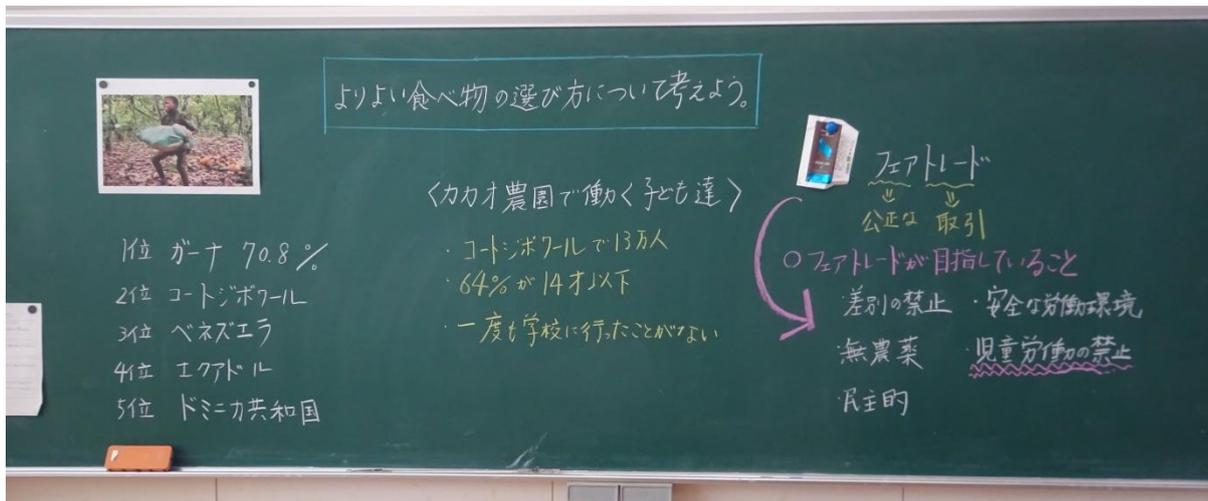


(*1)2002年発表、世界カカオ基金、米国国際開発庁及び労働省、ILO、各国政府の協力の下実施

資料として提示した ACE の HP の一部



児童の学習感想



【児童の感想】

- ・これからは、商品をよく見て、安全なものを買いたいし、消費する人のことだけでなく、作っている人のことを考えながら買っていきたい。
- ・一度も学校に行けなくて、働かなければいけないのがすごく悲しいと思いました。これから、フェアトレードが続いていけばいいなあと思いました。
- ・ぼくは、今まで生産者のことをあまり考えずに買っていたけど、今度からは進んで生産者のことを考えて買うことにしたいです。
- ・今日、この学習をして分かったことは、コートジボワールには、約13万人の子どもが農園で労働しているということです。
- ・今日、勉強して「フェアトレード」は、いいことを目指していると思ったので、フェアトレードの物を見つけたら、買いたい。生産者のことも消費者のことも考えて買いたい。

【考察】

この授業を实践して、概ねねらいに到達できたのではないかと考える。その理由は、「チョコレート」という身近な食べ物と、児童にとって、自分達とほとんど年齢の変わらない子ども達のことを題材として扱ったからではないだろうか。また、実物のフェアトレードの製品を準備し、また、フェアトレードの目指すところを資料を用いて捉えさせた点も有効であった。

ただし、反省点もある。まず、フェアトレードについて、指導者も児童も理解が浅いということだ。フェアトレードの製品は、他にも多数存在し、目指すところは児童労働の撤廃だけではないということを十分に認識した上で、指導する必要があると感じた。今回実践するうえで、自分自身もある程度の知識を得て臨んだわけだが、より正確で広い知識をもたなければならぬ。今回の児童の感想を見ると、

「生産者のことを考える」ということに留まっており、深まりが足りなかった印象がある。

最後に、今回は社会科で実践したわけであるが、「消費者教育」の分野は、家庭科、総合的な学習の時間、道徳、外国語活動、というように教科横断的に扱っていく必要があるのではないだろうか。今回は、題材の良さに加えて、取り組みやすさという点も加味して、社会科を選択したが、工夫することによって、様々な教科で取り扱うことができる。また、「消費者教育=物の買い方、お金の使い方」のみではないので、教師自身が、幅広い分野に関心を持ち、決して授業の中だけで触れていくのではなく、日常的に児童と共に考えていく機会を設けていかなければならない。